

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成24年度

神奈川県鎌倉市

経常収支比率の分析

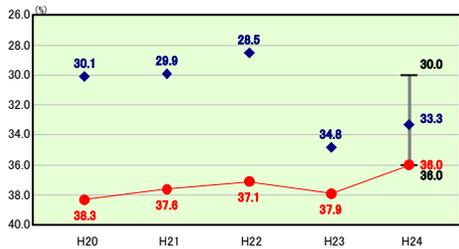
人口	177,895 人 (H25.3.31現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	176,717 人 (H25.3.31現在)	実質赤字比率	- %
面積	39.60 km ²	実質公債負担比率	-0.1 %
歳入総額	55,871,046 千円	将来負担比率	35.1 %
歳出総額	54,272,988 千円	市町村類型	H20 IV-3 H21 IV-3 H22 IV-3
実質収支	1,413,079 千円	(年度毎)	H23 IV-3 H24 IV-3
標準財政規模	34,069,347 千円		
地方債現在高	43,007,972 千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。

人件費

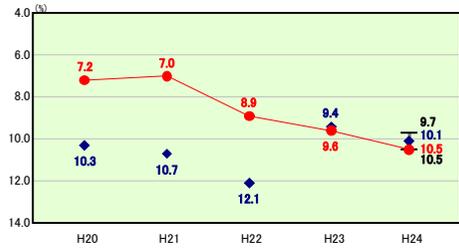
類似団体内順位 2/2 全国平均 24.8 神奈川県平均 25.7



人件費の分析概
 人件費については、平成23年度の勤奨退職者数の増加に伴う悪化を除いて、近年、職員数の減少、人事院勧告に伴う給与支給額の減及び退職手当支給額の減などにより、継続して減額傾向にあり、平成24年度についても、前年度より1.9ポイント改善した。本市においては平成24年8月から2年間、平均7.7%の給与の暫定削減措置を実施しており、平成25年度も指数は減少すると見込まれる。

扶助費

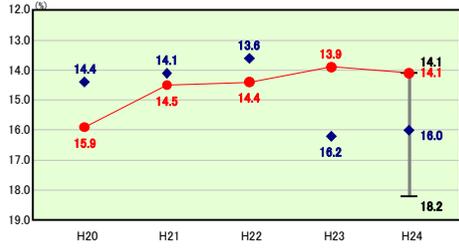
類似団体内順位 2/2 全国平均 11.2 神奈川県平均 15.5



扶助費の分析概
 扶助費は増加傾向にあるが、平成23年度は生活保護費が増額したこと等に伴い、0.9ポイント悪化した。

公債費

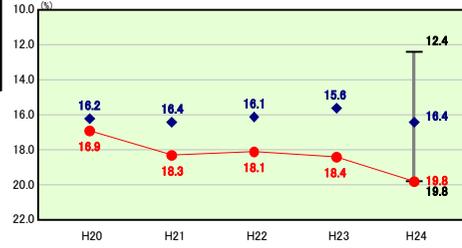
類似団体内順位 1/2 全国平均 18.8 神奈川県平均 18.0



公債費の分析概
 平成24年度は過去の高利債償還が進んだため公債費は減額しているが、母分の経常一般財源等が公債費の減額を上回る減額となったため、0.2ポイント悪化した。今後も継続して公債費の減額を図っていく。

物件費

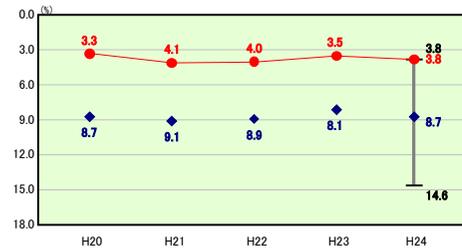
類似団体内順位 2/2 全国平均 13.3 神奈川県平均 14.7



物件費の分析概
 予防接種医薬材料費や税総合システム更新業務委託等の増額により、前年度より1.4ポイント悪化した。今後も職員数適正化計画による職員数の減に対応した資金の増などの要因により、微増傾向が継続するものと考えている。

補助費等

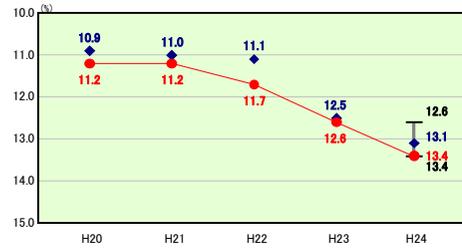
類似団体内順位 1/2 全国平均 10.1 神奈川県平均 10.9



補助費等の分析概
 補助費等は近年横ばい傾向にあるが、類似団体平均を大幅に下回っており、今後もこの傾向を継続するよう努める。

その他

類似団体内順位 2/2 全国平均 12.5 神奈川県平均 10.7



その他の分析概
 国民健康保険事業特別会計や後期高齢者医療事業特別会計への繰入金が増となったことにより前年度より悪化した。今後も、国民健康保険事業特別会計や後期高齢者医療事業特別会計への繰入金増加傾向にある。

公債費以外

類似団体内順位 2/2 全国平均 71.9 神奈川県平均 77.5



公債費以外の分析概
 経常収支比率が95.9%から97.6%へ悪化したことにより、公債費以外が前年度より1.5ポイント増加した。今後は、公債費が減少傾向にあることと、臨時財政対策債(人口基礎方式)の発行可能額が減額することから、公債費以外が増加していく傾向にあると分析している。